

# 内視鏡 ベトナムで指導



内視鏡を使った検査を指導する医師団ら＝10月24日、ベトナムのフエ医科大学で（山下病院提供）

## 一宮の専門技師・坂口さん 医療支援チーム参加

一宮市平和の女性看護師、坂口紀代さん（むぎ）が十月下旬、ベトナムの医療支援チームに加わり、現地で内視鏡を使った検査の指導に取り組んだ。ベトナムは内視鏡の専門医が少なく、消化器系の検査や治療の遅れが懸念されている。坂口さんは「医療技術の底上げを急ぎたい」と話している。

（太田理英子）

## 人材育成、技術底上げを



ベトナムで内視鏡の検査を指導した坂口さん＝一宮市中町の山下病院で

### 懸命に学ぶ現地看護師

### 「初心に帰らされた」

坂口さんは内視鏡の専門技師で、山下病院（一宮市中町）の看護師長を務めている。ベトナム中部のフエ市にあるフエ医科大学は、名古屋大は九月上旬に内視鏡の専門医を養成するトレーニングセンターを開所。同時に日本から医師団の短期派遣も開始された。

坂口さんが参加したのは、名古屋大医学部消化器内科の後藤秀実教授を成すトレーニングセンターとする医師団。十月二十一日から二十六日まで、医師六人と看護師三

開所に合わせた一回目の不足に加えて、衛生管理は基本的な説明をし、二回目の今回は内視鏡を使った検査や診断を指導。併せて超音波内視鏡など最先端の機器も導入した。胃カメラなどを使った内視鏡検査は、胃がんや大腸がんの早期発見に役立つ。症状を正しく見極めるためには胃を洗浄し、検査の妨げになる粘液を洗い流すことが不可欠でない。しかし、ベトナムの医療機関では洗浄さ

れず、検査に時間がかかっていた。坂口さんは「現地スタッフが今回学んだことを継続できるか看護師四人に、胃の洗浄や咽頭部への麻酔などは早期発見が肝心の検査の基本的な処置を教えた。日本語から英語、英語からベトナム語への通訳が必要だったが、身ぶり手ぶりを交え、薬品の調合、検査時の手順や立ち位置を説明し

現場では、人材や技術行きを望んでいる。坂口さんも二度目のベトナム